

ガーネコ親父の

昔々、世界で数年に一度開催される「冬の競技大会」を誘致できた王様がいた。しかし肝心の雪は降らず、氷も薄く張つただけで大会の準備ができずに胃は痛んだ。

それを見ていた氷の悪魔は、「このチャンスを活かさない手はないな」と悪巧み。人間に姿を変え、氷の山から降りて、王様のところに出向いた。「こんなにも雪が降らなくて大変ですね」と、心の中で赤い舌を出しながら哀れんでみせた。

「しかし大丈夫です、お任せを。私には魔力があります」と、実際に机の上のコップの氷を一瞬のうちに凍らせてしまった。氷の悪魔は王様と取引をした。雪を降らせ、氷を張らせることができたら、あなたの美しい姫と一度デートがしたい。その許可が欲しいと王様に迫った。窮地に陥っていた王様はガーネコデートで一度だけならば、涙を飲んでOKを出したのだった。

悪魔の言うとおり競技場に雪は降り、氷は張った。王様の約束通りに姫はガーネコに出向いたが、すぐに行方不明になつた。氷の悪魔から「姫を返してほしかつたらお前の王位と交換するしかないな。俺がお前の本性を現した氷の悪魔から」、姫の命はないものと思え」と脅迫状が届いたのだった。

王様は姫奪還のため「取り戻した者には、姫への結婚挑戦権を与えよう」と信頼できる若者三人を選抜した。姫に憧れていた三人は氷の悪魔が棲む山に向かつた。三人は凍りついた急斜面を登り、悪魔の棲家にたどり着いたが、入口は重い石の扉で閉じられていた。俺の力が必要な時が来たら、国一番の力持ちは全力で石の扉をこじ開けたものの、腰がグキッと音を立てて、その場に崩れ落ちた。中には氷の悪魔が待ち構えていた。今度は俺の番だとばかりに、アーチエリーの名手である二番目の男は矢を放つが、氷の身体に簡単にハネ返されてしまった。

氷の悪魔が三番目のマツジローを睨んだその時、マツジローが持つていたヤンドルの聖火が目に入り、瞬間に視力を失つた。その隙に囚われていた姫を助け出して屋外に飛び出しが、最後は氷の崖から崖に追いやられました。「おい、そこのヒーローさんよ。凍りついた崖をどうやって降りるんだ?」と急角度の崖を見てニヤリ。

マツジローは背中のボードを下ろし、姫を背負つた。そして氷の崖に続く急坂をボードで滑り降り始めた。「滑るのは得意なんだ。もう何回も王国の公務員試験に『すべって』いるからな」と氷の悪魔に言い放つた。頭に来た氷の悪魔は強風を浴びせた。

強烈な風に巻き上げられたマツジローは枯葉のようひらひらと舞つてしまつた。

背中の姫は覚悟して「ああ、お父様」と目を閉じた時、マツジローの身体がくるくると回転した。なんと空中で五回転半。何百年後に日本の選手が成功することになるビッグエアだつたのだ。大技を成し遂げたマツジローは無事帰還を果たし、願いが叶つて姫と婚約することになった。その日はちょうど聖バレンタインデー。姫はしまっちゅ伝蔵をマツジローにプレゼントしたという。

「冬の競技大会」も無事に終わり、暖かい春が訪れようとしていた。王国の民衆は一人の結婚式のためにと大きな金メダルを準備。めでたし、めでたし。

「ビッグエア」に乾杯!!

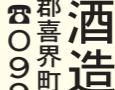


25度
好評発売中



喜界島

喜界島酒造株式会社



喜界町
鹿児島県
the most beautiful
villages in japan

2009年10月喜界島は
「日本で最も美しい村」連合
に選ばれ、加盟しました。
喜界島酒造株式会社はこの活動を
応援しています。



<http://www.kurochuru.jp> お酒は20歳になってから。お酒は楽しく適量を。飲酒運転は法律で禁止されています。妊娠中や授乳期の飲酒はお控えください。

常圧蒸留
喜美黒糖焼酎
しまっちゅ伝蔵

